



# 第38回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2023年 **12月13日（水）** 14:00—16:00

※13:30 受付開始

※終了後、交流会がございます。

開催方法：ハイブリッド開催

◆会場参加：グランフロント大阪北館 タワーC 8F

ナレッジキャピタルカンファレンスルーム C-05

<http://www.kc-space.jp/conference/items/towerC.pdf>

◆オンライン：zoom ウェビナーを使用します

参加費：セミナー無料（交流会：1,000円）

主催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会、バイオコミュニティ関西 (BioCK)

講演 I 14:00-15:00

「生命の試験管内再構成とその再発明への挑戦」

大阪大学大学院 工学研究科 教授 青木 航 氏

生命の最も重要な特徴は自己複製であり、その最小のメカニズムは自律的セントラルドグマである。自律的セントラルドグマとは、(1)転写、(2)翻訳、(3)DNA複製、(4)リボソーム生合成の4つのプロセスを、自身にコードされた情報に基づいて実行し、自己複製を続ける機構のことである。この4つのプロセスのうち、リボソーム生合成の再構成は達成されておらず、自己複製する生命を試験管内で再現するというゴールに向け大きなボトルネックになっていた。我々は、リボソームの自己複製過程を解析するためのさまざまな方法論を開発し、それらを応用することで、試験管内でリボソームの自己複製を再構成することに初めて成功した (bioRxiv, 2022)。この成果は、「生命とは何か」という根源的な問いに答える試みに大きく貢献するものと期待される。

講演Ⅱ 15:00-16:00

「マルチオミクス解析による小児がんの病態理解と新規克服法の開発」

京都大学大学院医学研究科 小児科 教授 滝田 順子 氏

小児がんは成人がんと比べると稀ではあるものの、本邦における小児の主要な死亡原因となっている。そこで、難治性小児がんに対して、マルチオミクス解析を実施し、分子病態に立脚した新規克服法の開発を進めている。これまでに神経芽腫における新規治療標的 ALK、ATM を同定し、T細胞性急性リンパ性白血病(T-ALL)や乳児 ALL などの造血器腫瘍、希少肉腫の分子病態の解明にも取り組んできた。本講演では、これまでの研究成果を概説する。

申込先：参加希望者は2023年12月12日（火）までに、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/informations/3622>



こちらからもお申込みいただけます

問合先：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（菅原、大嶋）  
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（西尾、味村）